

JICA横浜 教師海外研修とは

独立行政法人国際協力機構（JICA）が主催する、国内事前研修、海外での現地研修、国内事後研修で構成される国際理解教育・開発教育実践のための研修プログラムです。

訪問する国の歴史、現状、人々の生活、国際協力などについて学び、国際理解教育・開発教育の実践者育成と推進を目的としています。

2024年度研修概要

対 象 教 員：神奈川県および山梨県の教員

参 加 者：小学校教員4名、中学校教員4名、高等学校教員3名（合計11名）

渡 航 国：ブラジル連邦共和国

研 修 期 間：2024年6月～2025年3月（海外研修は8/4～8/17）

研 修 回 数：渡航前国内研修3回、現地研修2週間、帰国後国内研修3回

研 修 テ ー マ：「多文化共生・移民」

研修参加者からのメッセージ

多様性が尊重される社会、多文化が共生する社会の実現を目指し、より多くの子どもたちに学びを届けるために、多くの先生や大人たちに私たちの学びや気づきを共有したいと考え、このワークを作成しました。

ホームルーム、朝の会、または授業でご活用ください。このワークの他にも、私たちの研修報告書、研修での学びを短くまとめた動画、多文化共生通信などを作成しました。

以下のQRコードからご覧ください！



独立行政法人国際協力機構 横浜センター（JICA横浜）

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

TEL:045-663-3253 / FAX:045-663-3265

Email:yictpp@jica.ca.jp / <https://www.jica.go.jp/yokohama>

2024年度JICA横浜 教師海外研修参加者作成

多文化共生ワーク

この壁の文字は??

●ねらい（知ったり考えたりしてほしいこと・揺さぶりたい価値観）

「移民」とひとづくりの中にも「個人」がいます。

「難民」とひとづくりの中にも「個人」がいます。

「〇〇人」の中にも「多様な個人」がいます。

個々の事情、背景、生活習慣、趣味、特技、性格もあらゆる点で多様なはずですが、

わたしたちは気付かぬうちに簡単にひとづくりにして捉えてしまうことがあります。

対象を個人として捉える視点を大切にしたいという思いがこのワークには込められています。

●使い方

①壁一面に彫られたこれらの文字は何でしょう？

②移民博物館で撮影された写真です。ブラジルに移住してきた人たち（移民）の名前です。

奴隷制度（主にアフリカなど）が禁止され、移民に頼るようになりました（日本、イタリアなど）。

●学習者の気づき（引き出せそうなこと）

名前だと、より一人ひとりの重みを感じた…

個人を尊重していると感じた…

〇〇人とかひとづくりをしていたけど同じ〇〇人でも人によって同じことも違いもある…

自分はひとづくりされるのが良い時と嫌なときがある…

●使用場面

あらゆる学年、場面で使用することができます。

職員研修（国際理解教育研修や、外国籍児童受け入れに関する研修）などでも活用していただけます。

興味関心を引き出し、意見共有も容易にできるので、特に導入におすすめのワークです。



SALERNO BETTINI
TULIANO VIALCHO
RONGA SANCHEZ
LAGI SIGISMONDI
OCCA SECCHIERELLI
OLA GARRIDO BRA
ROJO BELTRAME
NI GAZQUEZ SANCH
SERIKAWA BARBO
SA MOZZANO BALE
RIGATE CARMELA
LLI GUERCHITTI VE
GAZQUEZ PARRA MA
ALA CADARELLI ST